

2024年12月4日

消費動向調査結果(2024年10月調査)

物価高による家計への負担が続き、消費の抑制姿勢がさらに強まる

本調査は、県内の消費動向や消費者意識を把握するため、県内1,000世帯を対象に、3カ月ごとに実施している。

 調査結果のポイント

1. 物価と消費行動について

- ・ 物価の上昇を感じる割合が引き続き8割超
- ・ 「物価上昇により支出が増えている」という割合は72.0%と、前回(24年7月、以下同じ)調査に比べ4.2ポイント上昇
- ・ 最近の収入の変化は、「収入は増加した」が28.1%と前年同期(23年10月)調査に比べ11.4ポイント上昇
- ・ 今後の収入の変化見通しは、「増加する見通し」が11.2%と前回調査に比べ4.0ポイント低下
- ・ 今後の消費行動は、「抑制的」の割合が半数にまで上昇

2. 環境意識と車の購入意向について

- ・ 環境問題について意識しているという回答割合は6割超
- ・ 車を購入する際に重視することは、「車体価格」が79.0%で最多
- ・ 次回購入を検討している車は、ガソリン車の割合が55.9%と最も多いが、ハイブリッド車も5割に迫る
- ・ 次回購入の際、電気自動車(BEV)を検討しない理由は、「価格が高い」が61.7%で最多
- ・ 車のサブスクリプションサービスを知っている(「知っており、既に利用している」+「知っており、利用を検討している又は利用してみたい」)は6.8%

➤ 今回の調査では、前年に比べ足元の収入は増加したものの、今後の収入変化の見通しは、増加する見通しの割合が前回調査に比べ低下する結果となった。物価高の継続により家計への負担が増える中、収入増加の継続性への不透明感から、消費行動の抑制姿勢はさらに強まった。こうした中、車の購入意向については、車両価格や燃費性能などを重視する割合が多い。次回購入を検討する車としては、ガソリン車の割合が最も多いが、ハイブリッド車(HEV)も5割に迫る。また、電気自動車(BEV)は、「価格が高い」「充電スポットの数が少ない」等の理由で、次回購入を検討する割合は約1割にとどまった。

<お問い合わせ先>

一般財団法人 長野経済研究所 電話：026-224-0501

担当：調査部 主任研究員 須田 浩路

「消費動向調査」アンケート実施概要

調査時期： 2024 年 10 月上旬～中旬

調査対象： 長野県内在住の 1,000 世帯

回答属性： 単独世帯 240 世帯
二人以上世帯 760 世帯

性別 男性 50.0 % 女性 50.0 %
年齢別

20 代	4.3 %
30 代	9.7 %
40 代	22.2 %
50 代	22.3 %
60 代	22.8 %
70 代以上	18.7 %

調査方法： インターネット調査

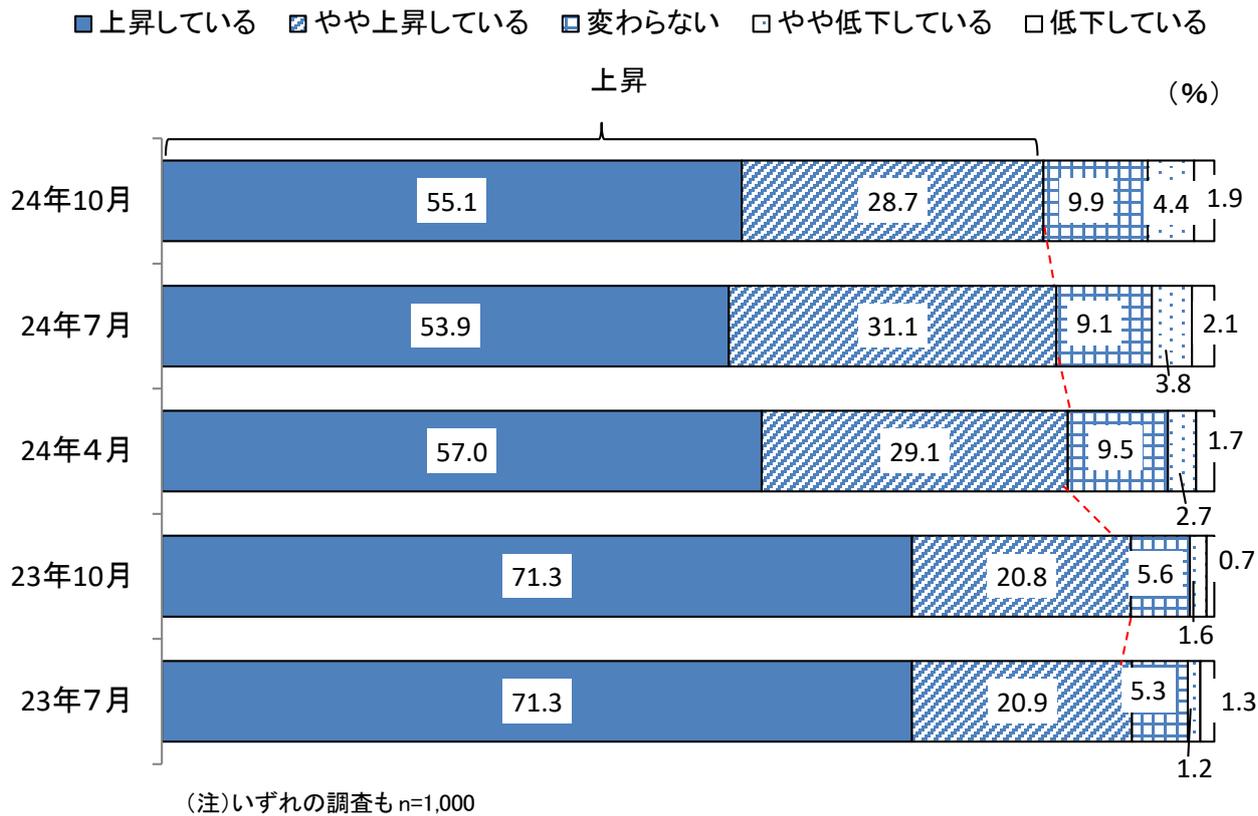
※四捨五入の関係で、合計が 100%にならない場合がある。

1. 物価と消費行動について

(1) 物価の上昇を感じる割合が引き続き8割超

- 最近の物の値段やサービスの価格については、**図表1**のように、上昇（「上昇している」＋「やや上昇している」）と感じている人の回答割合が83.8%と最も多く、前回（24年7月、以下同じ）調査に引き続き8割を超えた。

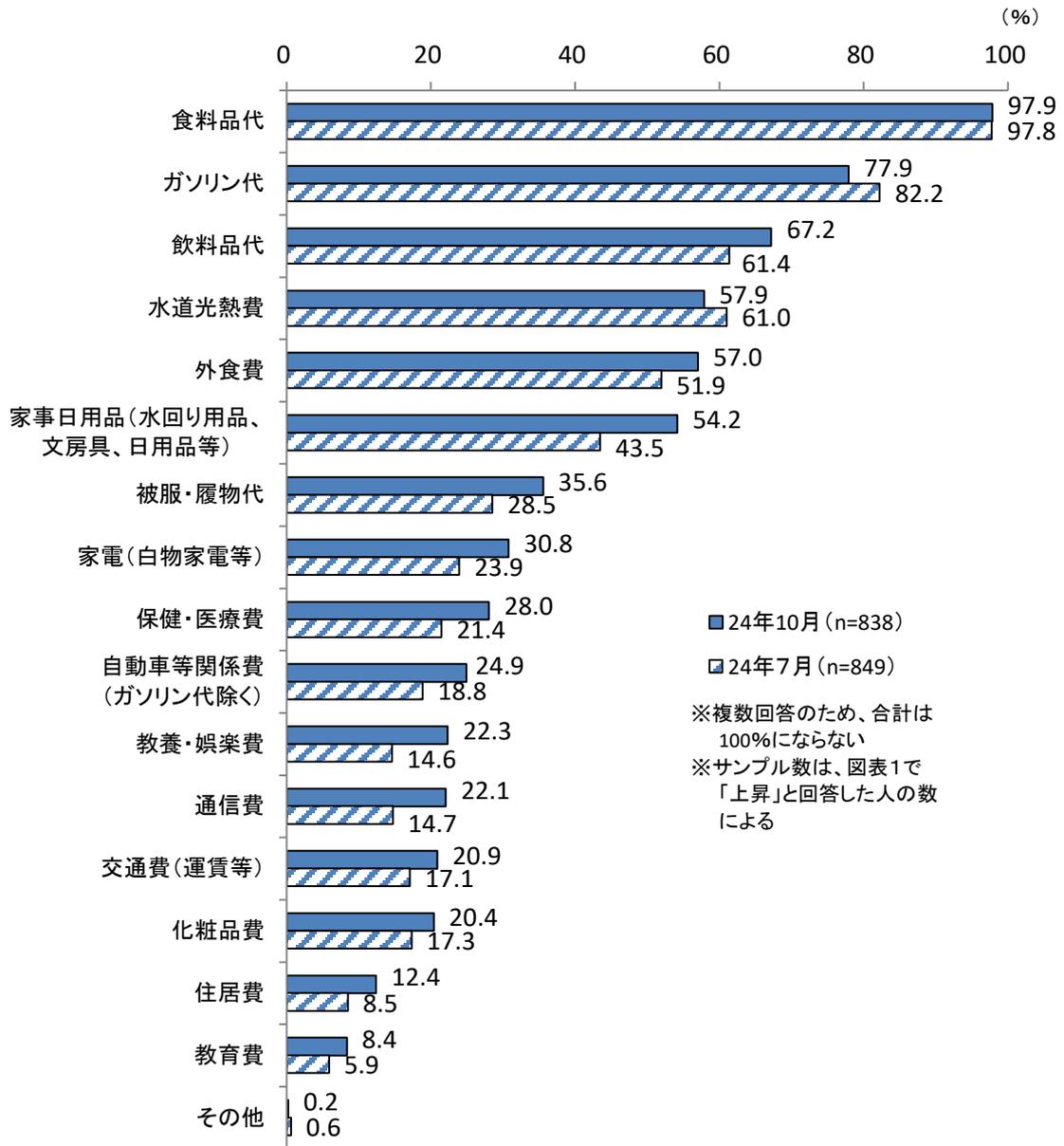
図表1 物価の感じ方



(2) 物価上昇を感じる項目は、「食料品代」が9割超で最多

- 物価の上昇を感じる項目は、**図表2**のように、「食料品代」97.9%と最も多く、次いで「ガソリン代」が77.9%、「飲料品代」が67.2%などとなった。
- 前回調査と比べると、「家事日用品（水回り用具、文具、日用品等）」が10.7ポイント、「教養・娯楽費」が7.7ポイント上昇した一方、「ガソリン代」が4.3ポイント、「水道光熱費」が3.1ポイント低下した。

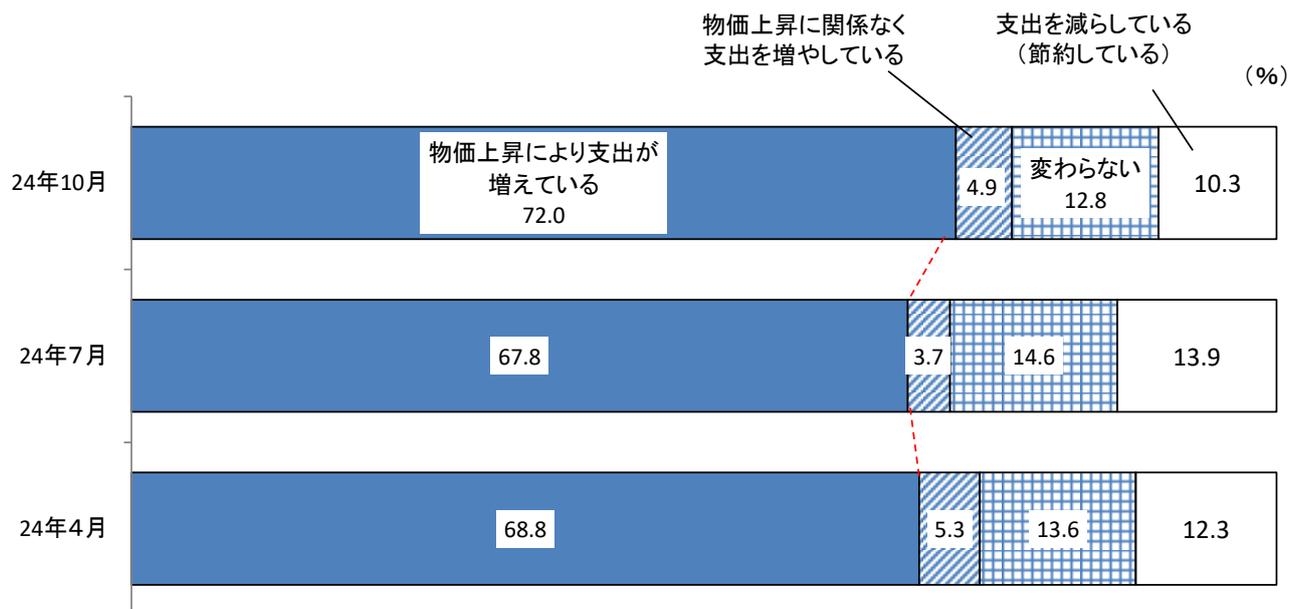
図表2 物価上昇を感じる項目



(3) 「物価上昇により支出が増えている」という割合は72.0%と前回調査に比べ4.2ポイント上昇

- ・ 最近の物価上昇に伴う家計支出の変化については、**図表3**のように、「物価の上昇により支出が増えている」が72.0%と7割を超え、前回調査と比べて4.2ポイント上昇した。
- ・ 一方、「支出を減らしている（節約している）」は10.3%となり、前回調査に比べ3.6ポイント低下した。

図表3 最近の物価上昇に伴う家計支出の変化

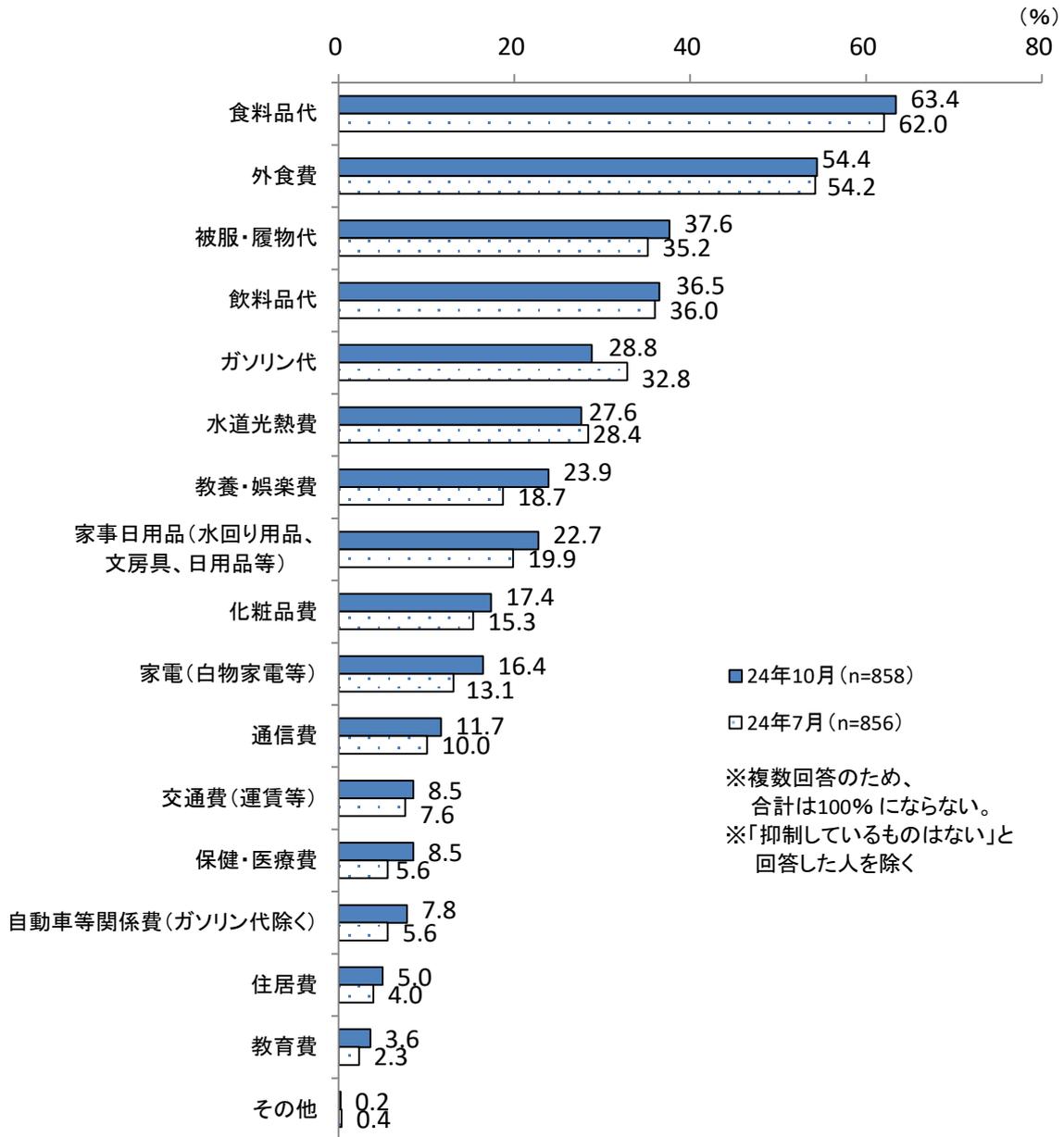


(注)いずれの調査も n=1,000

(4) 支出を抑制している項目は、「食料品代」が63.4%で最多

- ・ 家計支出を抑制している項目については、図表4のように、「食料品代」が63.4%と最も多く、次いで「外食費」が54.4%、「被服・履物代」が37.6%などとなった。
- ・ 前回調査と比べると、「教養・娯楽費」が5.2ポイント、「家電（白物家電）」が3.3ポイント上昇した一方、「ガソリン代」が4.0ポイント、「水道光熱費」が0.8ポイント低下した。

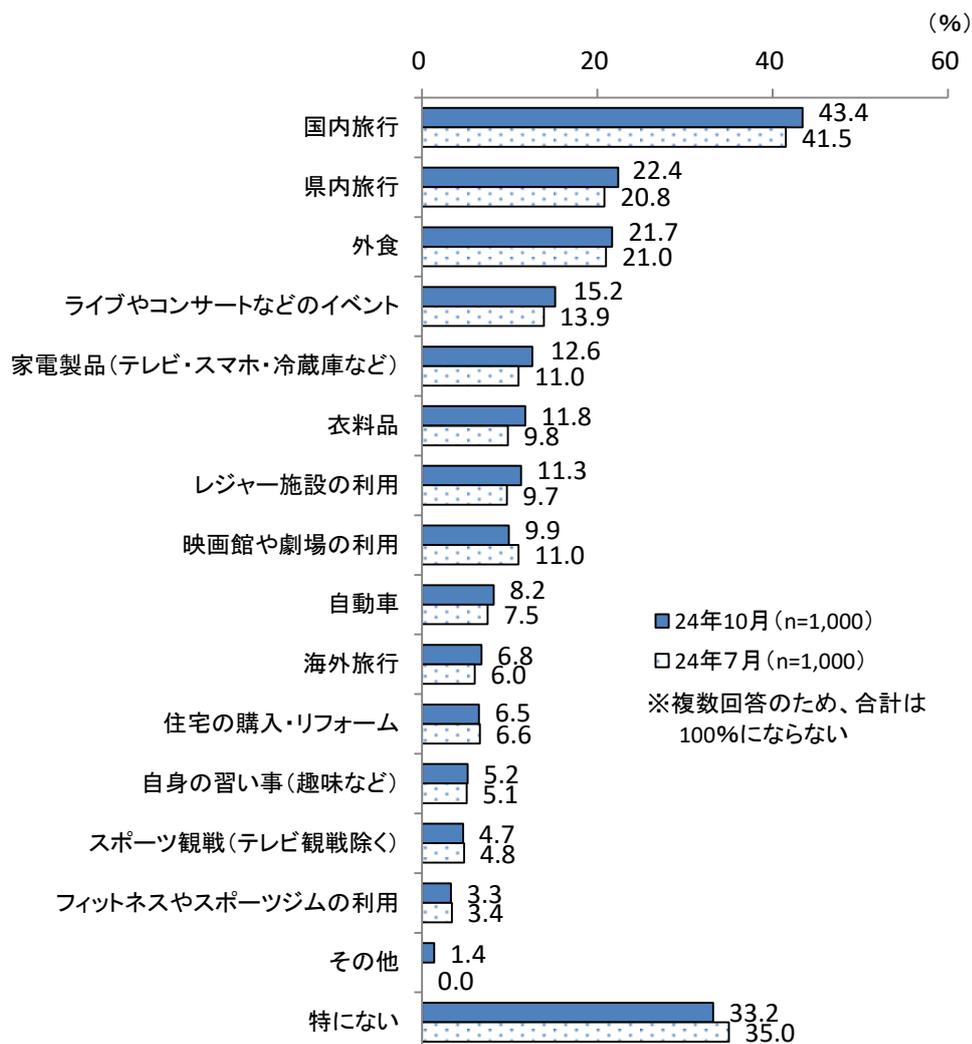
図表4 支出を抑制している項目



(5) 消費を増やしたい項目は、「国内旅行」が引き続き最多

- ・ 今後消費を増やしたい項目を尋ねると、**図表5**のように、「国内旅行」が43.4%と最も多く、次いで「県内旅行」が22.4%、「外食」が21.7%などとなった。
- ・ 前回調査と比べると、「衣料品」が2.0ポイント、「国内旅行」が1.9ポイント上昇した一方、「特にない」が1.8ポイント低下した。

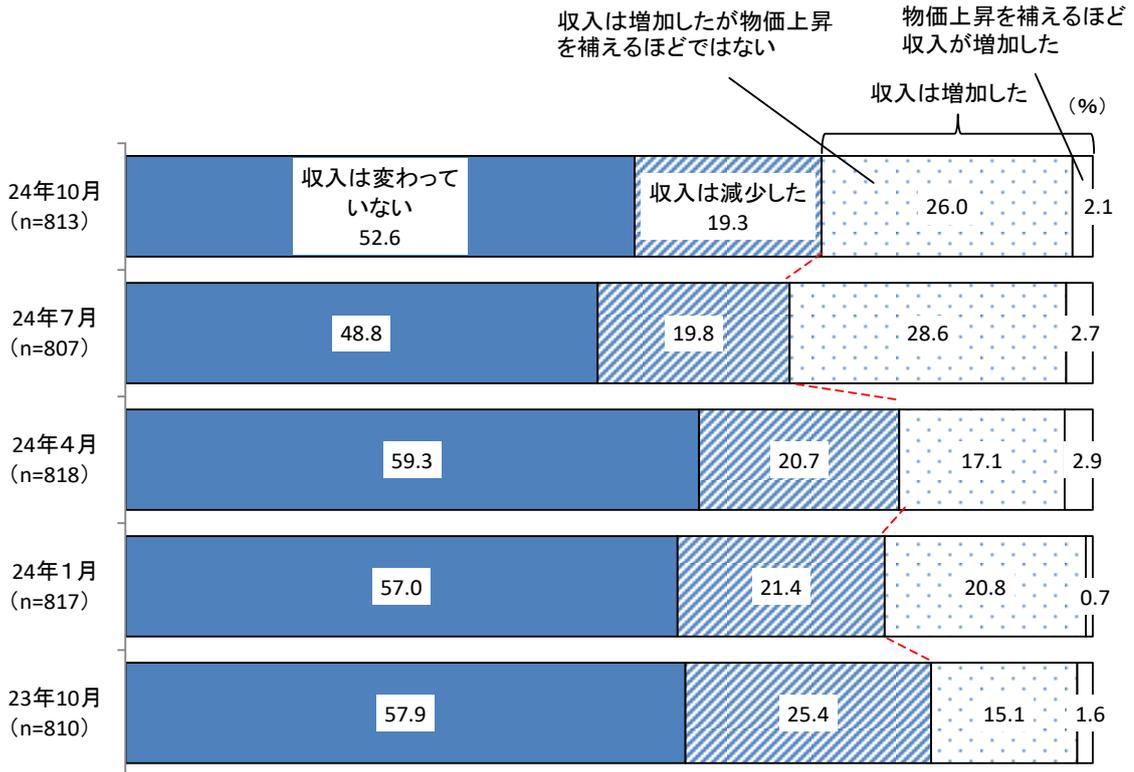
図表5 今後消費を増やしたい項目



(6) 最近の収入の変化は、「収入は増加した」が28.1%と前年同期（23年10月）調査に比べ11.4ポイント上昇

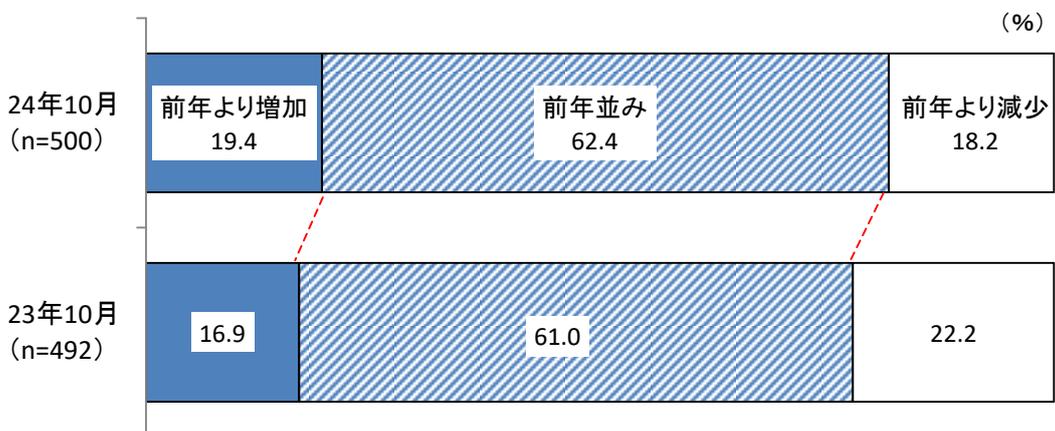
- 20～60代に収入の変化について尋ねたところ、**図表6**のように、収入は増加した（収入は増加したが物価上昇を補えるほどではない）＋「物価上昇を補えるほど収入が増加した」の回答割合が28.1%となり、前年同期（23年10月、以下同じ）調査に比べ11.4ポイント上昇した。
- また、夏季ボーナスの支給状況を尋ねると、**図表7**のように、「前年より増加」は19.4%と前年同期調査比べて2.5ポイント上昇した。

図表6 最近の収入の変化



(注) サンプル数は、20～60代の回答者数による

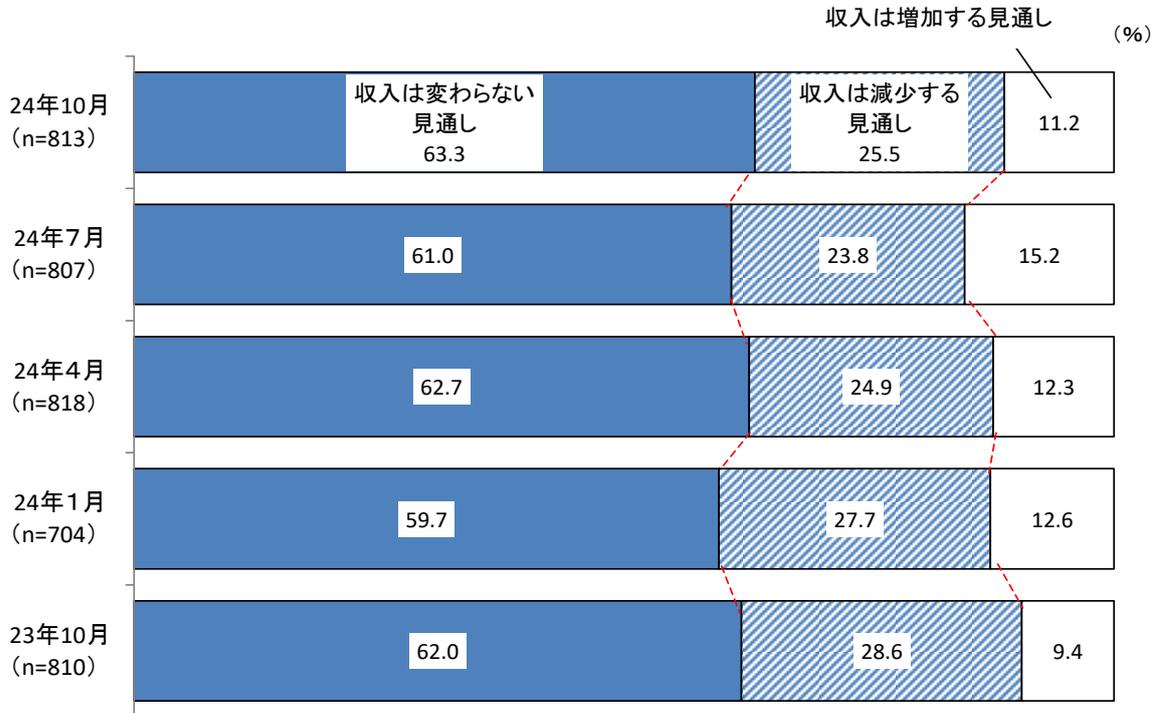
図表7 夏季ボーナスの支給状況



(7) 今後の収入の変化見通しは、「増加する見通し」が11.2%と前回調査に比べ4.0ポイント低下

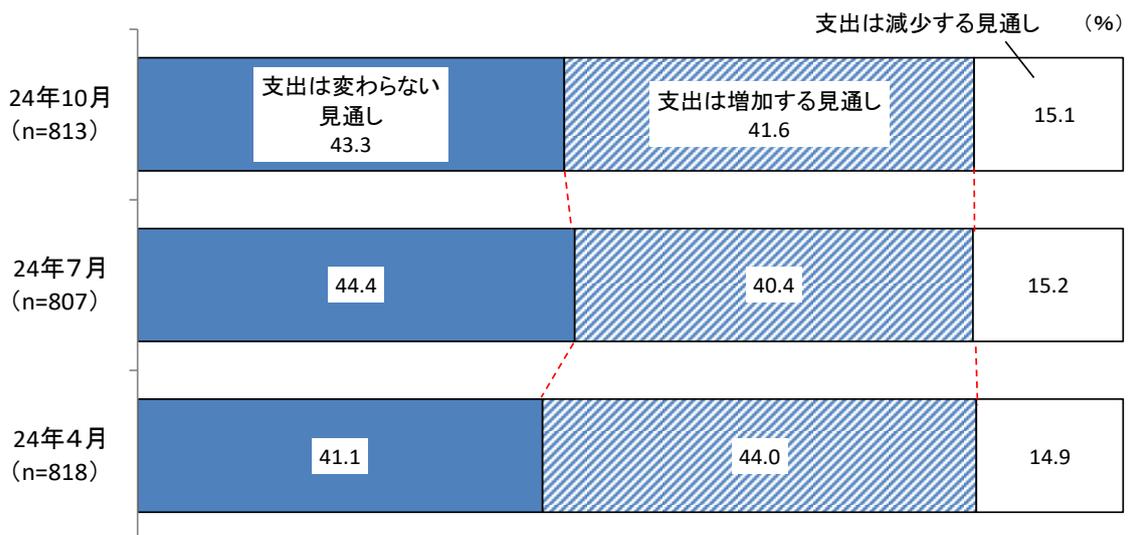
- 20～60代の回答者に収入の変化見通しについて尋ねたところ、**図表8**のように、「収入は増加する見通し」が11.2%と、前回調査に比べ4.0ポイント低下した。
- 今後の支出の見通しについては、**図表9**のように「支出は変わらない見通し」が43.3%と最も多く、前回と同様の結果となった。

図表8 今後の収入の変化見通し



(注) サンプル数は、20～60代の回答者数による

図表9 今後の支出の変化見通し

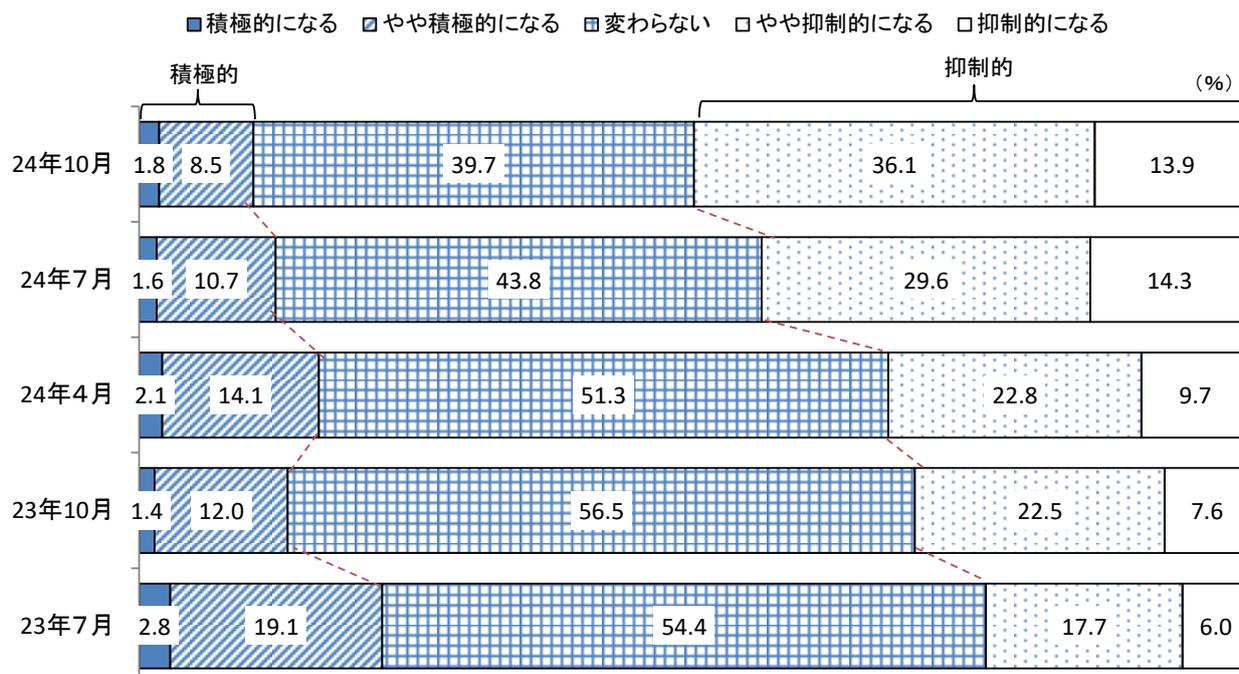


(注) サンプル数は、20～60代の回答者数による

(8) 今後の消費行動は、「抑制的」の割合が半数にまで上昇

- 今後の消費行動の変化見通しを尋ねたところ、**図表 10**のように、抑制的（「抑制的になる」＋「やや抑制的になる」）の回答割合が50.0%と半数となり、積極的（「積極的になる」＋「やや積極的になる」）は10.3%にとどまった。
- 前回調査と比べると、抑制的が6.1ポイント上昇した一方、積極的が2.0ポイント低下した。

図表 10 今後の消費行動の変化見通し



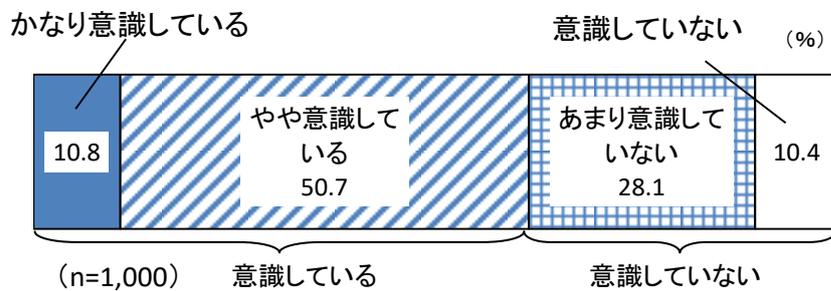
(注)いずれの調査も n=1,000

2. 環境意識と車の購入意向について

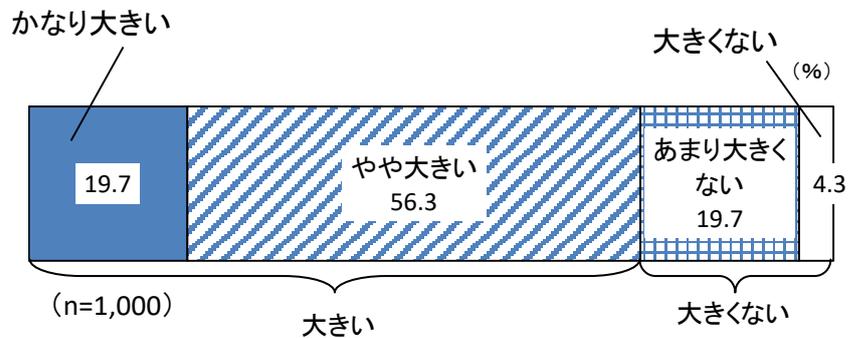
(1) 環境問題について意識しているという回答割合は6割超

- ・ 日頃の生活の中で地球温暖化や環境汚染などの環境問題に対する意識を尋ねると、**図表 11** のように、意識している（「かなり意識している」＋「やや意識している」）が61.5%と、意識していない（「あまり意識していない」＋「意識していない」）の38.5%を23.0ポイント上回った。
- ・ 車をもたらす環境への影響度への考えについて尋ねると、**図表 12** のように、大きい（「かなり大きい」＋「やや大きい」）が76.0%となった。

図表 11 環境問題についての意識



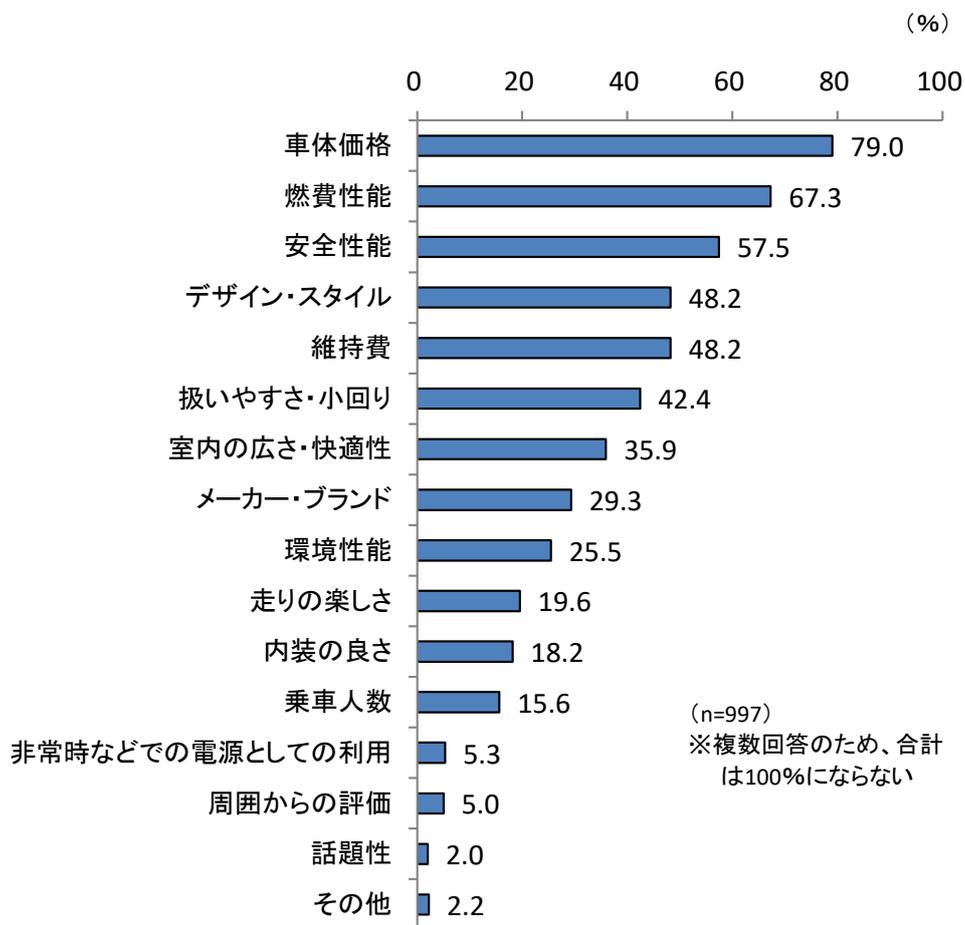
図表 12 車をもたらす環境への影響度への考えについて



(2) 車を購入する際に重視することは、「車体価格」が79.0%で最多

- ・ 車を購入する際に重視する項目を尋ねると、図表13のように、「車体価格」が79.0%と最も多く、次いで「燃費性能」が67.3%、「安全性能」が57.5%などとなった。

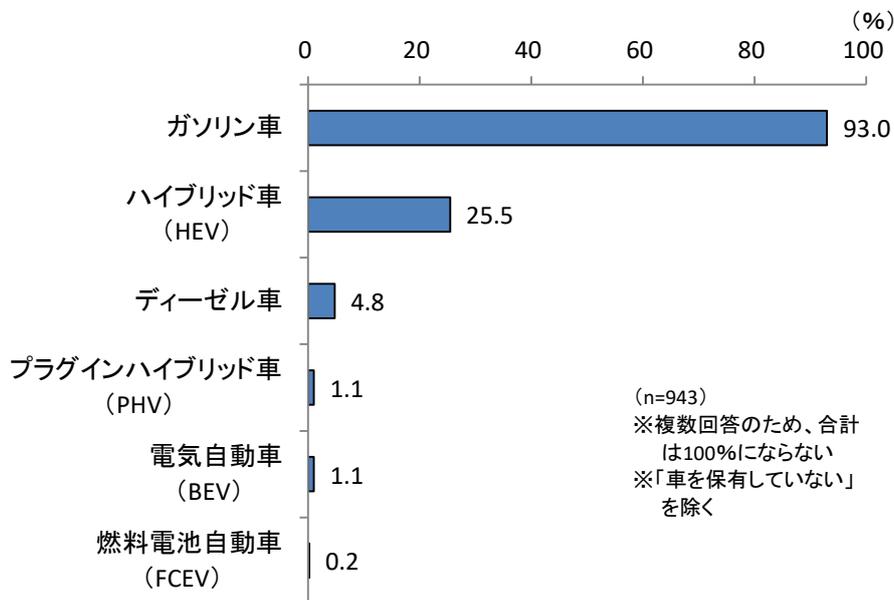
図表13 車を購入する際に重視する項目



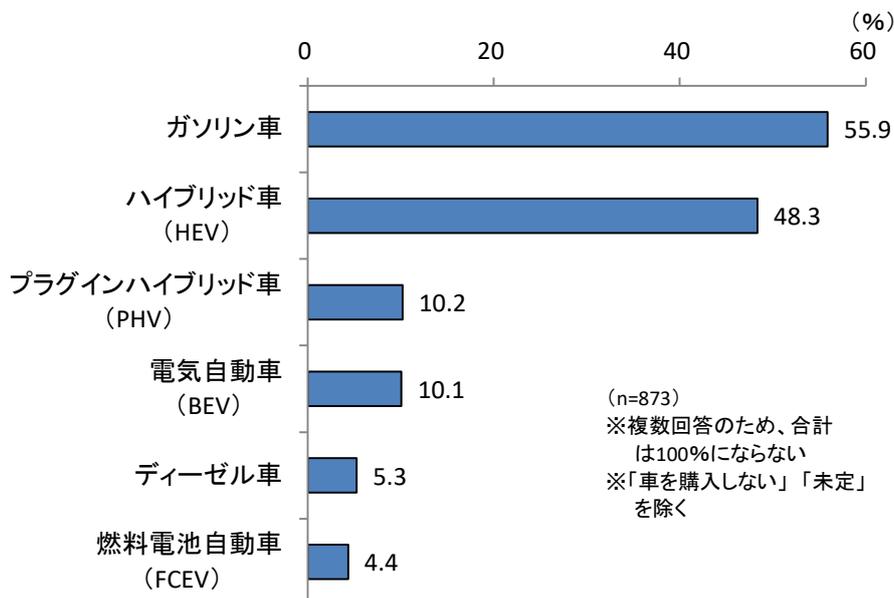
(3) 次回購入を検討している車は、ガソリン車の割合が 55.9%と最も多いが、ハイブリッド車も 5 割に迫る

- 世帯で保有している車のエンジンタイプを尋ねると、**図表 14**のように、「ガソリン車」が 93.0%と最も多く、次いで「ハイブリッド車 (HEV)」が 25.5%、「ディーゼル車」が 4.8%などとなった。なお、本調査においては、一世帯で複数台の車両を保有していることを考慮に入れる必要がある。
- 次回購入を検討している車のエンジンタイプは、**図表 15**のように、「ガソリン車」が 55.9%と最も多いが、次いで「ハイブリッド車 (HEV)」が 48.3%と割合を高め、「プラグインハイブリッド車 (PHV)」も 10.2%などとなった。

図表 14 保有している車のエンジンタイプ



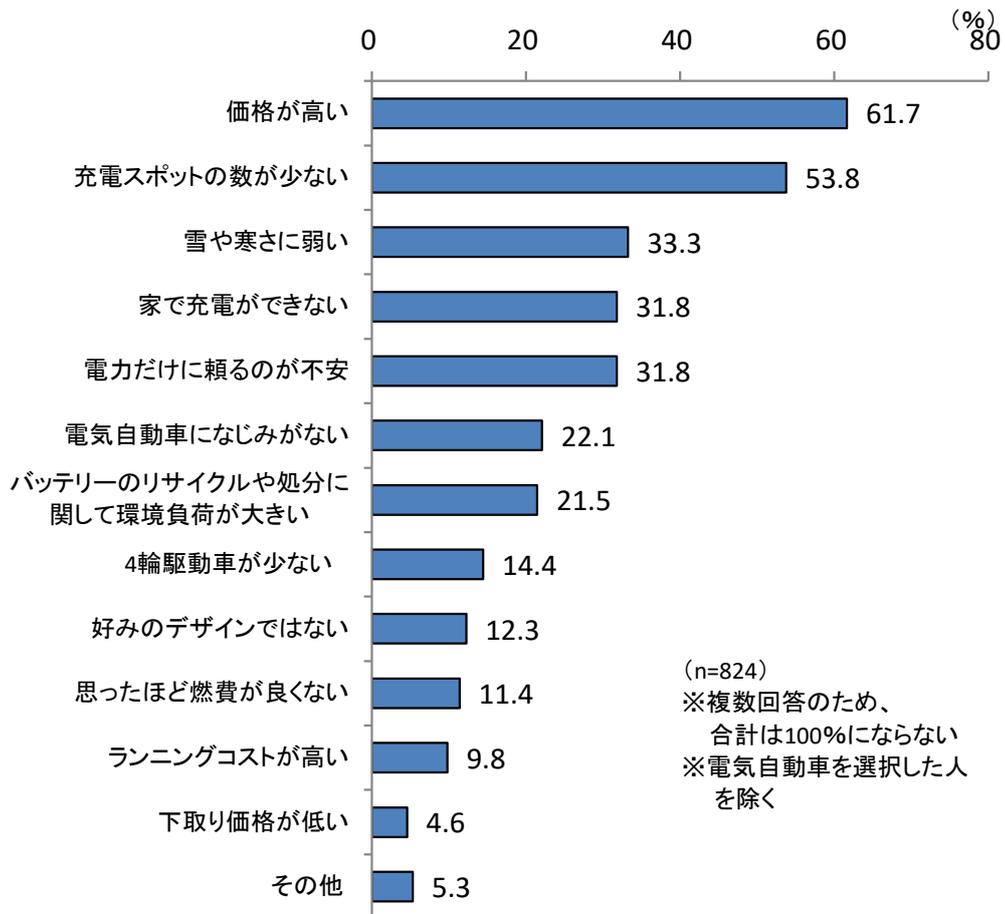
図表 15 次回購入を検討している車のエンジンタイプ



(4) 次回購入の際、電気自動車（BEV）を検討しない理由は、「価格が高い」が61.7%で最多

- ・ 次回購入を検討している車について、電気自動車（BEV）を選ばなかった人にその理由を尋ねると、図表16のように、「価格が高い」が61.7%、「充電スポットの数が少ない」が53.8%、「雪や寒さに弱い」が33.3%、「家で充電ができない」と「電力だけに頼るのが不安」が31.8%などとなった。

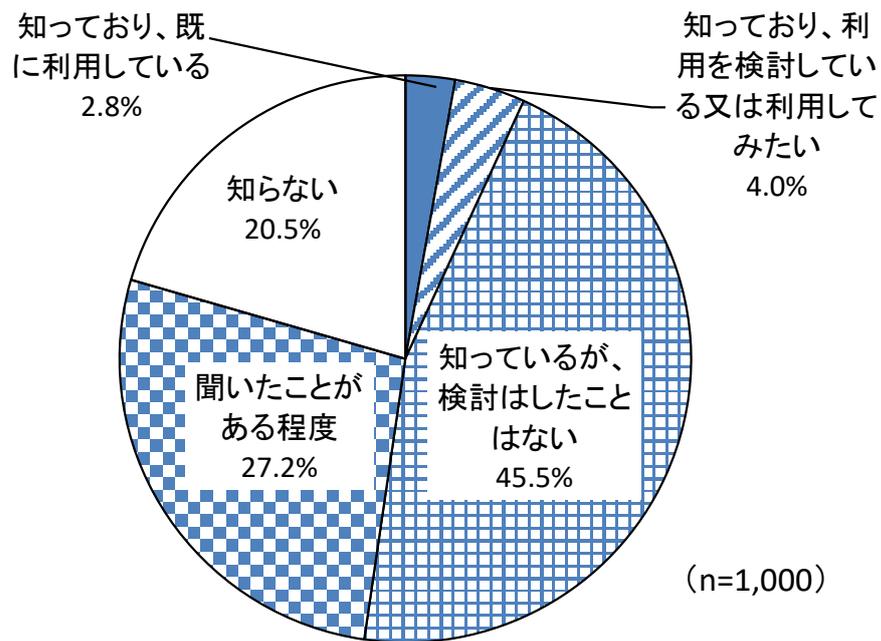
図表16 電気自動車（BEV）を検討しない理由



(5) 車のサブスクリプションサービスを知っている（「知っており、既に利用している」＋「知っており、利用を検討している又は利用してみたい」）は6.8%

- 車のサブスクリプションサービス（車両の本体価格や維持費などの費用を含めた月額定額料金を支払うことで、契約期間中に新車を利用できるサービス）の認知度や利用意向について尋ねると、**図表 17**のように、知っている（「知っており、既に利用している」＋「知っており、利用を検討している又は利用してみたい」）は、6.8%となった。

図表 17 サブスクリプションサービスの認知度



以上